

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲 第	号
------	-------	---

氏 名 大 林 陽 子

論 文 題 目

日本人褥婦の出産に関連したストレス症状とその関連要因

The Validity and Reliability of a Scale on Postnatal Posttraumatic Stress

Symptoms Related to Childbirth among Japanese Women: Evaluation of

the Japanese-language Version of the Impact of Event Scale-Revised

(日本人女性の出産に関連した産後心的外傷後ストレス症状に関する
尺度の妥当性と信頼性—日本語版改訂出来事インパクト尺度の評価—)

論文審査担当者

主 査 名古屋大学教授 浅野 みどり

名古屋大学教授 池松 裕子

名古屋大学教授 入山 茂美

論文審査の結果の要旨

出産後、心的外傷後ストレス症状が増強した女性は、心的外傷後ストレス障害（PTSD）を発症する恐れがある。産後に PTSD を発症した女性は、産後うつや児への愛着障害になりやすいことから、産後心的外傷後ストレス症状を観察し、関連する要因を明らかにすることは重要課題である。欧米や豪州の女性において、予定外の医療介入、出産経験の否定的認知、低いストレス対処能力が産後 PTSD 発症に影響すると報告されている。しかし、本邦では、産後の出産に対する心的外傷後ストレス症状の関連要因の研究は皆無である。また、日本人女性の産後の心的外傷後ストレス症状を測定するスケールの妥当性は検証されていない。

本研究の目的は、産後1ヶ月の出産に関連した産後心的外傷後ストレス症状を測定するために、Postnatal Women Version of Japanese-language of the Impact Event Scale-Revised (IES-R-J-PWV) の妥当性と信頼性を検証し、ストレス症状とその要因を検討することとした。

本研究の新知見および意義は以下のとおりである。

1. 日本人女性の産後1ヶ月の出産に関連した産後心的外傷後ストレス症状に関するスケール (IES-R-J-PWV) の妥当性・信頼性を立証した。構成概念妥当性では、探索的因子分析を行い、固有値 1.0 以上で因子の抽出を決定し、因子負荷量 (0.35 以上)、固有値の落差、因子の解釈可能性を考慮し、4 因子 22 項目を採用した。第1因子 (7 項目) は出産経験に対する感情抑制困難、第2因子 (8 項目) は出産経験の強制想起と動揺、第3因子 (5 項目) は出産経験に対する回避行動・解離症状、第4因子 (2 項目) は出産経験からの逃避行動と命名した。基準関連妥当性は、産後うつ (日本語版産後うつ病自己評価票) と出産に対する主観的ストレス (水平 Visual Analog Scale) との間に有意な正の相関 (各々 $r_s=0.40$, $p<0.01$, $r_s=0.47$, $p<0.01$)、ストレス対処能力 (Sense of Coherence-13) との間に有意な負の相関 ($r_s=-0.33$, $p<0.01$) を確認した。内的整合性は、Cronbach' α 係数が 22 項目全体で 0.92、サブスケールの第1因子 0.92、第2因子 0.85、第3因子 0.77、第4因子 0.76 と高い信頼性を示した。このため、IES-R-J-PWV は、産後の出産に関連したストレス症状を評価するために適切、かつ、有用なスケールであることの示唆を得た。

2. 出産に関連した産後心的外傷後ストレス症状を強くした要因は、医療介入 (帝王切開分娩、陣痛誘発・促進剤の使用)、産後早期の出産の否定的認知、出産をストレスのある出来事と認識したこと、産後早期の出産に関連した急性ストレス症状が強かったことが影響していた。その理由として、分娩時の強く長い痛みの経験や女性が医療介入による出産を肯定的に受容できなかったことが影響していたと考えられる。このため、看護師は出産に関連した産後心的外傷後ストレス症状を軽減するために、医療介入を最小限にして、産後早期に出産に関連した急性ストレス症状をもつ女性をできるだけ早く発見し、出産経験を肯定的に受容できるよう心理的ケアを提供する必要性の示唆を得た。

3. 本研究の意義は、日本人女性に産後1ヶ月に IES-R-J-PWV を使用することにより、職歴の年数にかかわらず、出産に関連した産後心的外傷後ストレス症状をもつ女性を確実に発見し、看護師が適切な時期に介入することによりストレス症状を軽減でき、悪化を防ぐことができる。また、看護師が必要に応じて退院後に地域の保健師と連携し、適切な支援を提供できる。

以上の理由により、本研究は博士 (看護学) の学位を授与するのに相応しい価値を有するものと評価した。